

神奈川県言語聴覚士会

# 神奈川県内の地域支援事業に対する 言語聴覚士の関与促進に向けた取り組み

神奈川県言語聴覚士会 事務局長 市川 勝 神奈川県言語聴覚士会 会長 鈴木 恵子

神奈川県言語聴覚士会は全国で47番目の士会として平成24年4月に発足し、県内の言語聴覚士(以下、ST)の資質向上や県民に対する普及啓発、また行政や関連団体との連携を目的に活動を続けているところです。

さて、地域支援事業へのSTの関与については、全国的にも未だ少ない現状があります。そのような中、当会では神奈川県横浜市における地域リハビリテーション活動支援事業への参画を通して、神奈川県内におけるST人材の確保に取り組んできました。

神奈川県横浜市は全18区、人口370万人を擁し、地域包括支援センターも138箇所ある政令指定都市です。横浜市が地域リハビリテーション活動支援事業を開始するにあたり、平成26年に市の担当者から神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会への協力要請があり、当会としては職能局を中心に取り組むこととしました。

市の担当者がリハビリテーション専門職に期待することとして、①通いの場である「元気づくりステーション」の活動支援、②ボランティア等の人材育成、③地域ケア会議への出席、④介護支援専門員向け研修の実施、の4点が挙げられました。そこで当会としては「住み慣れた地域において、人や社会とのつながりを維持しながら、その人らしい暮らしの継続や再構築を『食』と『コミュニケーション』の視点から支援する」を基本コンセプトとし、これに基づき各種コンテンツを作成しました。また、会員STの関与促進に向けて、会員STの関心度をふまえた研修体系を整備するとともに(写真1)、事業への参画に手挙げしていただいた会員の不安や疑問の解消、相談しやすい環境づくりを目的としたネット



1. 「地域包括ケアシステム研修会シリーズII」として実施した研修。神奈川県内での先駆的な取り組みから、自分たちができることを具体的に考える機会を設けた



2. 歌声サークルの会員とボランティアを対象に、STが講話をしている風景

ワークづくりを行いました。さらに、実際に事業を実施する段階の会員STに対してOn the Job Trainingを行い、企画から振り返りまでサポートする仕組みを構築しました。

実践事例をご提示します。当会宛に、歌唱を中心に活動するサークルの会員およびボランティアスタッフ向けの講話依頼がありました。当サークルの課題として、毎回の選曲や歌い方の指導に自信がなく、特にボランティアスタッフに不安が広がっているとのことでした。そこで、担当STは①介護予防の観点からみた歌唱、②声の大きさとともに、音の長短や高低、抑揚などを体感できる選曲の推奨、③サークルに参加し続けることと健康寿命の関係、そして④ボランティアスタッフが頑張っているからこそ、みんなが元気に参加し続けられていること、を伝達しました(写真2)。その結果、ボランティアスタッフから「今までより楽に、自信を持って企画できるようになった」などの声が聞かれるようになるとともに、虚弱傾向のある人でも参加しやすいようなプログラムも毎回企画されるようになったとのことでした。また、市区の担当者からも「STはボランティア育成の観点からも大変重要な職種であることを再認識した」との言葉をいただきました。

現在はこのような取り組みを県内の他圏域にも拡げ、神奈川県内11の二次医療圏ごとに核となる人材を確保するとともに、実際に活動できる人材のさらなる育成に尽力しているところです。今後の課題として、STが取り組む地域支援事業の質的および量的なアウトカムを検討していく必要があると考えております。